

令和5年度 学校評価書

学校教育目標 「すすんで学び、よりよく生きる人を育てる」

めざす子ども ○心も体も元気な子ども ○生活する力のある子ども ○自分の思いや気持ちを伝える子ども

【評価】 保護者による評価 A：3点、B：2点、C：1点、D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと保護者最大 75点）保護者25名
教員による評価 A：3点、B：2点、C：1点、D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと教員 最大45点） 教 員15名
達成度 A:達成できた（8割以上） B：ほぼ達成できた（6～7割） C：あまり達成できなかった（4～5割） D:達成できなかった（3割以下）

	めざす学校	重点	評価項目	具体策・評価指標等	達成状況	達成度	課題（△）及び改善策（→）
1	安全な学校	安心・安全な学校	(1) 感染症や熱中症の防止対策として、児童・職員の健康管理、防止対策の指導、環境整備を実践している。	基本的感染症防止対策（手洗い、換気等）熱中症防止対策（熱中症指数測定と判断、水分補給、帽子着用、室温管理等）	・教室の常時換気、サーキュレーターやCO2 モニターの使用、休み時間の換気など、全職員で感染防止対策に努めたことで、感染拡大などもなく過ごすことができた。 ・熱中症指数測定により体育館やグラウンドの状況を把握し、児童の実態に合った安全な活動場所や学習内容を考慮したり、児童も教師も水分補給をこまめに行ったりして、熱中症を予防した。	A	【危機管理】＜学部 生活部＞ △ヒヤリハットの未然防止に向けて。 →児童理解研修会等で共有したことを、実際の生活場面に当てはめて考え、危険の予測や事故等の未然防止に努める。 【児童の健康管理・安全確保】＜生活部＞ △アレルギー対応について、一部の職員による対応となっていた。 →より一層の児童の健康管理と安全確保のために、令和6年1月末より「食物アレルギー対応委員会」を設置し、組織として対応する。
			(2) ヒヤリハットの集積や解決策の共通理解を通して、事故やいじめの未然防止を行っている。	毎日の学習環境点検、通学時駐車場での安全確保、きめ細かな生活指導	・昇降口解錠の時刻を定め、児童のより一層の安全確保に努めた。 ・ヒヤリハット事例は速やかに共有し、改善策を徹底して行った。 ・危険箇所を発見したときは、直ちに報告し速やかに修繕等の対応をとることができた。 ・児童について日常的に情報交換を行い、いじめ等の未然防止に努めている。		
			(3) 津山小学校と合同の避難訓練、安全マニュアルに基づく職員研修等を実施し、緊急時の対応に備えている。	避難訓練、職員研修の実施	・津山小との合同避難訓練や心肺蘇生法講習会など、計画通り実施できた。		
			(4) 児童・保護者の相談や地域の学校等からの要請に応じて、関係機関と連携し特別支援コーディネーターと巡回相談員を窓口にして相談事業等に努めている。	保護者・関係機関との連携	・保護者と連絡帳や登下校時のやり取りを通して、連携しながら一人一人に応じた指導・支援ができた。 ・保護者を通じて、医療機関に確認したいことを伝え、いただいた情報を日々の授業や、安全・生活指導に生かすことができた。 ・相談支援事業所や放課後等デイサービス事業所と情報共有し、指導・支援に生かすことができた。		
			評価点集計 教員 (1)44点 (2)43点 (3)44点 (4)42点 173点/176満点 98.3% 保護者(1) (健康・安全：69点) (6) (保護者との連絡：72点) 141点/150満点 94.0% 集計結果 96.2%				
2	楽しい学校	一人一人に応じた指導の充実 楽しく充実感のある授業の改善	(5) 個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成・活用し、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	作成・活用、毎日の授業記録と振り返り	・担任間で話し合いながら個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成することができた。また、それをもとに授業内容を考えることができた。特に国語や算数では、個別の指導計画で目標や到達度を確認しながら、単元を設定することができた。	A	【個別の教育支援計画】 <教務部＞ △提出を求められる場面になって初めて、保護者のサイン押印を依頼するため、書類の提出に時間を要してしまう。 →保護者のサイン押印は、年度当初にいただくこととする。 【個別の指導計画】 <学部＞ △個別の指導計画をこれまで以上に日常的に活用できるとよい。 →念頭に置いて取り組んでいく。
			(6) 集団生活の中で一人一人の力を発揮できるように指導・支援ができています。	児童の教育的ニーズ・実態の情報交換 実態や障がい特性に応じた学習内容・形態の検討と実践	・複数学年合同の授業は、児童にとって経験を広げたり、上学年の行動を見て学んだりするなど、大変有効な学習活動となった。 ・担当者間で、事前に児童に合った活動内容を話し合ったことで、互いに児童理解を深めることができた。 ・必要に応じ、様々な集団で学習形態を作り授業を行うことができた。児童も新鮮な気持ちで学習に臨む様子が見られた。		
			(7) キャリア教育の視点から、日常生活の指導やコミュニケーション能力の育成を大切に、経験の拡充を図り、生活年齢に合わせた体験的な学習に取り組んでいる。	段階的・発展的に進める指導・支援	・児童の進学先となる村山特別支援学校中学部の作業学習を見学させてもらった。先輩たちが働く姿を直接見せてもらったことで、進学への意識や学習のイメージをもちやすくなった。 ・「お店屋さん」など上学年のクラスの取り組みに招待してもらい、児童や教師にとってもキャリア教育の視点を感じるよい機会となった。		
			(8) 授業研究会の計画的な取組や研修をとおして学習指導の充実に努めている。	計画的な授業研究会の実施と実践の積み上げ、事前・事後研究会での情報発信・指導助言による専門性の向上	・教科の観点を取り入れて生活単元学習で授業研究を行い、今年度は図工や音楽の観点で授業づくりをしたことで、学習指導要領を読み込み授業での生かし方を考えることができた。 ・授業研で他の教師の指導を見せてもらったことで、学級にも生かせることを見つけ、日々の指導や支援に生かすことができた。		

			(9) 学習指導要領に基づいた目標設定や3観点による評価について研修を深め、授業改善に努めている。	実態把握と目標設定、3観点の評価と授業改善	・研究を通して、授業を考える際にどの教科を組み合わせるのかや、3観点のどこに当たるのかを意識して計画することができた。	
			(10) 津山小学校との交流や地域交流等をとおして、人との関わり方や自分の思いを伝える力を育んでいる。	学校間交流（計画的、日常的）、地域交流（施設・人材等資源の活用）、地域資源の活用	・津山小との交流では、仲間を迎える会、フレンズデー、運動会や学習発表会の参加、学年交流（1・2年）を行った。また、天童校の作品やダンスを見ての感想をカードに書いて届けるなど、津山小児童による自主的な活動・交流も生まれている。地域交流では、花植えやお話会、すてきなおんがく会など、様々な交流ができた。	
			(11) 体育や遊びの中で教師と一緒に楽しく活動し、運動の楽しさや喜びを味わう実践ができている。	体育、遊び、スポーツに対する興味・関心を高める実践	・児童の得意なことやできそうなことに合わせながら学習内容を検討し実施したことで、児童の挑戦しようとする姿や様々な運動に取り組む姿が見られた。 ・休み時間を利用して縄跳びや鬼ごっこなどで体を動かす児童がいた。また、体育の授業で習った前転を、家でも行っていた児童もいた。	
			評価点集計 教員(5)40点 (6)44点 (7)40点 (8)40点 (9)40点 (10)41点 (11)44点 289点/308満点 93.8% 保護者(2)(成長：72点) (3)(指導支援：69点) (4)(体を動かす：70点) (5)(交流：64点) 275点/300満点 91.7% 集計結果 92.8%			
3	頼りになる学校	保護者や地域への情報発信	(12) 教育相談の実施や地域の学校の授業研究会等での指導等、特別支援教育のセンター的機能を果たしている。	他校授業研究会への指導・助言、外部教育相談	・今年度は授業研究会助言等の依頼はなかった。(天童校への巡回相談の依頼が一件あったが、就学相談業務等、天童校の相談担当者に複数業務が集中した時期であったため、村特本校の協力のもと、本校の相談担当者が巡回相談を行った。) ・東桜学館中学校生徒のフィールドワーク（総合的な学習の時間）では、生徒の質問に答えたり、生徒作成の「障がい者理解に関するパワーポイント資料」に助言をしたりして、生徒の学びをサポートすることができた。	A
(13) 地域の方との交流、地域回覧用の学校だよりの定期的な発行、学校紹介リーフレットの作成・活用、マスコミ等との連携により、天童校の情報を発信している。	地域資源の活用、学校だよりの発行、天童市や新聞社等への情報発信	・読み聞かせサークルくれよんの皆さんや、天童中央ライオンズクラブの皆さんと交流をすることができた。 ・学校だよりのほか、山形新聞やサンデータイムス、テレビニュースなど、様々なメディアを通して、児童の活動の様子を地域の方々に積極的に発信することができた。 ・「花植え」「作品展」など、地域に向けた発信に積極的に取り組んだ。地域の方から、感想や励ましの言葉をいただいた。				
評価点集計 評価点集計 教員(12)36点 (13)43点 79点/ 90満点 87.8% 保護者(7)(地域への発信：72点) (8)(学校からの情報：69点) 141点/150満点 94.0% 集計結果 90.9%						
4	働いているからがこころの学校		(14) 会議や打合せの精選・適切な時間設定により、授業の準備や教材研究、研修等の時間の確保に努めている。また、在校等勤務時間管理を行い、より良い働き方に努めている。	一人一人の働き方改革の意識、計画的・効率的な業務の進め方、「自分の仕事に専念する日」の設定	・「自分の仕事に専念する日」の設定が良かった。 ・業務の重なりがあったとき、他業務の分担を代わってもらってありがたかった。 ・体育の分担を交代しながら実施し、無理なく指導に当たることができた。 ・学部内や担任間でできるだけ担当を調整して授業にあたることができた。	A
(15) 全職員で情報を共有し、課題解決に向けて取り組んでいる。	一人一人の専門性、得意分野を生かした役割や担当の調整、意見や思いを出し合える職場環境、グーグルクラスルームの活用	・学部合同の授業や各学級での授業の際など、児童の様子を見て意見を出し合い修正しながら進めることができている。 ・職員室の雑談の中で、児童の様子や教材のアイデアなど話すことができている。 ・教室でも職員室でも教員間の良好なコミュニケーションが取れている。職員の仲の良さ、話しやすい雰囲気が良い。 ・グーグルクラスルームを活用し、時間を設定しなくても情報をすぐに共有できた。				
評価点集計 教員(14)38点 (15)44点 82点/ 90満点 91.1% 集計結果 91.1%						

【津山小学校との交流や地域との交流】＜教務部、小学部 教頭＞
△津山小、本校・山形校、地域など、人とのかかわる学習の計画的な実施について。
→相手校の状況等を踏まえながら、互いにより学びができるよう丁寧に連絡調整を図り、交流を計画・実施していく。
→「村天だより」でも、児童の交流学習の様子を発信していく。

【体育・遊びの充実】＜小学部＞
△体を動かすことが好きになる活動の実践について。
→今後も学習活動の流れや内容を見直しながら、運動量を確保し楽しく取り組めるようにしていく。

【会議・打ち合わせ】＜企画運営委員会メンバー＞
△企画運営委員会のありかた。情報共有や確認は、会議を設定しなくても対応ができるのではないかな。
→1月から試験的に企画運営委員会を行っていない。そのことで不都合はないか、検証中。支障がなければ、次年度は企画運営委員会を廃止とする。

【時間の確保】＜教頭・教務・養教・生活部清掃担当＞
△週一回の「自分の仕事に専念する日」のほかにも、授業や教材研究の時間を生み出したい。
→職員の輪番制による、放課後の男女トイレ掃除を廃止する。トイレ掃除は学校技能員の業務とする。1月末から実施中。

【就学に係る教育相談】＜教頭・教務部進路担当・6年担任＞
△新入生や6年生の就学に係る業務では、自分たちで工夫改善しながら取り組むも、公開研や就学相談の時期が重なり、短期間で大変な数の相談対応や報告書作成となった。
→6年生の進学に係る業務は、夏休み前までに済ませる。
いつだれが何をするか、進学に係る一連の動きを明示する。
→来年度の新入生に係る業務も同様に夏休み頃から対応ができるよう、教頭は天童市教育委員会と連絡を密にし連携して進めていく。

【情報共有】＜教務部＞
△クラスルーム等の活用を行っているが、他にも何か良い方法はないかなを考えたい。
→1月から実施中。Gメールの活用。グーグルカレンダーの活用。情報共有やスケジュールの確認などが一段と行いやすくなっている。